

日本学術会議 地球惑星科学企画分科会（第 25 期・第 9 回）
議事要旨

1. 日時 令和 5 年 5 月 24 日（水）18:00~20:00

2. 会場 遠隔会議（主催会場：東京大学）

3. 出欠

出席委員：沖大幹、三枝信子、佐竹健治、田近英一、中村卓司、西弘嗣、春山成子、堀利栄
欠席委員：なし

4. 議題等

- (1) 前回議事録確認
- (2) 意思の表出の状況の確認
- (3) 未来の学術振興構想について
- (4) 会員・連携会員選考について
- (5) 日本学術会議の在り方をめぐる動向について
- (6) その他

5. 配布資料

資料 1 : 前回議事録

資料 2-1 : 見解「我が国の地球衛星観測に関する統合的戦略立案について」(案)

資料 2-2 : 見解「国民の安全を確保するための放射性物質拡散問題の解決にむけて」(案)

資料 2-3 : 記録「大気化学の将来構想 2022-32」(記録 ver) 230420 提出版

資料 2-4 : 提言「壊滅的災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」(案)

資料 2-5 : 見解「「地理総合」の充実と小学校から大学まで一貫した地理教育の構築に向けて—持続可能な社会の実現を目指して—」(案)

資料 2-6 : 今期の地名に関する意思の表出(提言案)の取り下げについて

資料 3-1 : 「未来の学術振興構想」について

資料 3-2 : 未来の学術振興構想の全体像のイメージ

資料 4-1 : 選考委員会及び各分野別選考分科会における連携会員候補者となるべき者の選考について(案)

資料 4-2 : 第 26 期会員・連携会員選考に係る今後の進め方について(案)

資料 5-1 : 日本学術会議のあり方をめぐる動向について

資料 5-2 : 自然科学系学協会長声明「日本学術会議法の性急な改正について再考を求める」

資料 5-3 : 日本学術会議元会長連名声明「岸田文雄首相に対し日本学術会議の独立性および自主性の尊重と擁護を求める声明」

資料 5-4 : ノーベル賞受賞者による声明「日本学術会議法改正につき熟慮を求めます」

資料 5-5 : 内閣府「日本学術会議法の見直しについての検討状況」

資料 5-6 : 「2 月 16 日臨時幹事会における内閣府からの「検討状況」説明についての懸念事項」

資料 5-7 : 「世界の自然科学系ノーベル賞受賞者による声明」

資料 5-8 : 「梶田会長から G 7 各国のアカデミーの会長、国際学術会議 (ISC) の会長宛てのレター及び米、独、仏、伊のアカデミー会長からの返信」

資料 5-9 : 「この間の経緯と法案改正をめぐる論点」

資料 5-10 : 内閣府「日本学術会議法の一部を改正する法律案(検討中)」

資料 5-11 : 勧告「日本学術会議のあり方を見直しについて」

資料5-12：声明「「説明」ではなく「対話」を、「拙速な法改正」ではなく「開かれた協議の場」を」

6. 議事内容

(1) 前回議事録確認

資料1に基づき田近委員長により前回議事録が紹介された。

続いて5月25日(木)に開催予定の地球惑星科学委員会において審議する以下の議事について、内容と進め方を確認した。

(2) 意思の表出の状況の確認

6件の意思表示(資料2-1~6)の準備状況について、各担当者から簡潔に説明することとした。

(3) 未来の学術振興構想について

中村(卓)委員により未来の学術振興構想(資料3-1~2)のとりまとめ状況が報告された。併せて文科省が公募中の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想(ロードマップ2023)」について情報交換を行った。

(4) 会員・連携会員選考について

佐竹委員により資料4-1~2に沿って第26期会員・連携会員の選考委員会の状況が報告された。

(5) 日本学術会議の在り方をめぐる動向について

田近委員長より、4月に開催された日本学術会議総会での議論やその後の状況について簡潔に説明する方針であることが説明された。

(6) その他

第25期から26期へ継続して活動する必要がある分科会・小委員会(特に国際学術団体に対応する国内委員会として設置しているもの)については、26期に継続する予定の会員・連携会員を中心に、分科会・小委員会の設置に向けた準備を早めに開始するよう地球惑星科学委員会にて周知することとした。

また、今年度の予算(会員手当、委員手当、旅費)の状況とその執行方針についても、地球惑星科学委員会にて周知することとした。

以上